

- ちょっと小金原 #16 -

「人作りは心作り」

「心作りは仲間作り」

「仲間作りはおやじの会」

栗ヶ沢中学校教頭

宮坂 敬章

「小金原おやじの会」が設立された2005年、私は六実中学校で教務主任を努めておりました。ある時、校長先生から栗ヶ沢中学校でも父親の会を作るらしいから、会則を竹内先生に送るよう指示されたことを覚えております。

その時はまさか自分が栗ヶ沢中学校に着任するとは思いませんでしたが、24年目を迎えた父親の会の存在価値を目の当たりにしていましたので、同じ市内の中学校で父親たちが学校のために立ち上がるものと期待をしておりました。

その後、2年間の金ヶ作中学校での教頭を経て、この4月に栗ヶ沢中学校に赴任することになり、驚きと同時に「おやじの会」の存在に大きな感動と喜びを感じました。

それは、設立4周年交流会において、会長の宮崎さんから設立のいきさつと主旨を伺ったことです。「この会は、中学校が荒れているから出来たのではない。おやじの存在感が希薄になっている昨今、荒れる子供たちを含めて、すべての子供たちにおやじの存在をアピールし、地域で支え、地域で育てるための会なのだ。また、そのことを通じておやじ達相互の交流を深め、地域に密着した活動をすることで、子供たちに地域の良さや大切さを後姿で示すことが目的なのだ。」この話を伺って思い出すのは、六実中学校での経験でした。六実中の父親の会も学区内パトロールや校庭の草刈り、「桜祭り」や「六実っ子まつり」への模擬店参加、「ふれあい体験学習」の

企画・実施や駅伝の応援等々、学校の支援にとどまらず、地域行事への参加を積極的に実施する中で、父親同士・教師との交流を深めています。

ここで私が学んだことは、様々な職業のお父さん方とのふれあいの中で、学校社会とは違った一般社会の厳しさと価値観でした。また、子供を育てるのは学校だけではなく、地域が一体となって「見守る」ことが大切であることも学びました。

さらに、子供達にとっては、知らないお父さん達と一緒に活動する中で「よく手伝ってくれたね。ありがとう」「さすが中学生ともなると違うなー」と「認めて」もらうことで、自分の存在感を自覚できる場ができたと同時に、地域がより身近に感じられたのではないのでしょうか。そして、教師と生徒の関係でも「君のお父さんは、すごく頑張っていたね」と教師から声がかけやすくなり、生徒との新たな心の交流を生み出す活動ともなりました。

今、学校教育は様々な重要課題を抱えておりますが、その一つに「人間関係作り力の低下」が挙げられます。相手「を思いやる心」「を気遣う心」「に感謝する心」「のために奉仕する心」「を敬う心」「に学ぶ心」等々、人間が人間らしく生きていくためには、こうした「心」を育てる事は最も重要な事です。しかし、「心」は一人で育つものではなく、学ぶ仲間との交流により育つものです。その仲間は同学年との横のつながりだけでなく、異年齢との縦のつながりで社会性を身につけるものです。ここの部分が、学校教育だけでは不十分なところであり、一番身近な家族や地域の人たちの協力が必要不可欠であると考えます。

栗ヶ沢中学校の「おやじの会」は、子供と家族をつなぎ、子供と地域をもつなぐ会であると同時に、子供達が健全に育つ為には無くてはならない存在であり、その役割と価値には多大なものがあります。今後とも小・中学校のお父さん方のみならず、卒業生のお父さん方も巻き込むなどさらに「仲間」を増やし、共通の目標の下、一致団結してご活躍いただきますようお願いいたします。私も微力ながら、子を持つおやじとして参加させていただきたいと思います。